

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

I コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

1. 基本的な考え方 更新

1. 基本的な考え方

当社は、取締役会をはじめとした会社の各機関が、その目的に応じてそれぞれの役目を十分に果たすことがコーポレートガバナンスを充実させる手段であると考えております。これにより、経営の透明性・公正性を高めるとともに迅速な経営判断が行えるよう努めております。

2. 基本方針

コーポレートガバナンスの充実、健全で効率的な経営を実践するための根幹を成すものであり、当社は、中長期的なガバナンスの向上に資するために意思決定の透明性・公正性を確保するよう努めてまいります。

取締役会は、各取締役の業務執行状況を互いに監視・監督するモニタリング機能を有するとともに、事業計画等の経営方針や業務執行に関する重要事項を決議する経営の最高意思決定機関としての機能を有しております。このため、取締役会は、業務に精通した取締役を中心に重要案件を審議するとともに、社外取締役および社外監査役は、経営陣に対するチェック機能を働かせ、専門分野における助言や経営の監督を行ってまいります。社外役員候補者については、当社が定める独立性判断基準に該当する者を選定し、独立した立場の社外役員による経営の監視が有効に働くよう努めてまいります。さらに、取締役会に上程される取締役報酬や取締役候補者の議案を決定するにあたっては社外取締役の意見を反映させ、意思決定の透明性・公正性を確保することといたします。

また、個別の懸案事項や詳細に検討を要する事項を審議する機関として、社長直轄のリスク管理委員会、コンプライアンス委員会、内部統制委員会といった委員会組織を設け、それぞれの役割に応じた審議事項を協議・検討してまいります。審議内容については、必要に応じ取締役会に報告され、取締役会は、各委員会で定められた社内での管理体制とその運用状況が有効に機能していることを確認してまいります。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則を実施しない理由】 更新

【補充原則1-2-4 議決権の電子行使および招集通知の英訳】

議決権の電子行使を可能とするための環境作りにつきましては、株主や投資家の皆さまのご意見を参考にしつつ、コストや効果等を勘案し、検討してまいります。

招集通知の英訳につきましては、外国人株主保有比率に留意しつつ、英訳を行う際の事務手続きやコスト等を勘案し、検討してまいります。

【補充原則3-1-2 英語での情報の開示・提供】

英語での情報の開示・提供につきましては、外国人株主保有比率に留意しつつ、英訳を行う際の事務手続きやコスト等を勘案し、検討してまいります。

【原則4-8 独立社外取締役の有効な活用】

当社は、独立社外取締役の有用性を認識しており、1名の社外取締役を選任しております。また、経営陣から独立した社外監査役2名を選任しており、独立した立場から取締役の職務の執行状況を監査し、透明性の高い公正な経営監視体制を確保しております。

当社の企業規模や事業内容を考慮すると、取締役会においては業務に精通した取締役を中心としながら、独立した社外取締役および社外監査役によるチェック機能を働かせる体制が効率的であり、当社の取締役会は、現在の体制で効率的に機能していると考えております。

ただし、独立社外取締役を増員することは、取締役会の更なる監督機能強化の観点から有用であると考えており、来年度の定時株主総会においては2名以上の選任を目指しております。

【補充原則4-11-3 取締役会全体の実効性についての分析・評価】

今後、取締役会全体の実効性についての分析・評価の仕組みを構築し、来年度以降に、分析・評価の結果の概要を開示してまいります。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示】 更新

【原則1-4 いわゆる政策保有株式】

1. 政策保有に関する方針

当社は、中長期的な企業価値向上の観点から、事業の円滑な推進と取引先との友好的な関係構築のため、基本的に政策保有株式として株式を保有する方針としております。ただし、保有または保有を継続するにあたっては、保有することが当社の株主価値を毀損することのないよう、保有のねらい、合理性について定期的に検証し、今後の営業展開等を考慮して保有についての判断を行うことといたします。

2. 議決権行使の基準

政策保有株式に係る議決権の行使については、議案の内容を吟味し、当該議案が可決された場合には当該会社の株主価値を毀損させると判断した議案については、反対票を投じることを検討いたします。

【原則1-7 関連当事者間の取引】

関連当事者との取引は、その性質上、会社との利益相反を生じさせるおそれがあるため慎重に行うとともに、その取引を監視し、チェック機能を有効に働かせる必要があります。当社は、会社と取締役との間の重要な取引について、取締役会の承認を要するものとしております。

また、監査役を含む各役員は、近親者も含めて会社と行った取引の明細を会社に対して提出しており、会社と取締役との取引をチェックできる体制となっております。

【原則3-1 情報開示の充実】

(i) 経営理念等

1. 会社の経営の基本方針

当社グループは、『空気と水のテクノロジー』を通じて環境にやさしい生活空間の創造を目指す、『環境エンジニアリングを中核事業とし、ひろくお客様から「信頼」される企業を目指す』、『人材の育成・教育を重視し働き甲斐のある企業を築き、社会に貢献する』という経営理念のもと、環境制御技術を駆使して社会に貢献するとともに、「環境のトータルエンジニアリング」企業として地球環境保全に貢献する活動を行い、CSRを重視した経営を実践してまいります。

2. 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、従来からの3か年の事業計画に加えて、本年度から2023年度までを見据えた「中長期経営ビジョン2023」を新たに策定いたしました。東京オリンピック・パラリンピック後の建設市場の縮小が懸念される中で、長期的な経営方針を確立し、市場のニーズを的確に汲み取って安定的な収益の確保を目指してまいります。

また、これと同時に、2015年度をスタートとする新たな「中期3か年事業計画」(2015年4月から2018年3月まで)を策定いたしました。「中長期経営ビジョン2023」の実現に向けて、中期的な経営戦略を明確化し、より具体的な施策を展開してまいります。

「中長期経営ビジョン2023」および「中期3か年事業計画」の概要は以下のとおりであります。

<中長期経営ビジョン2023>

(1) 中長期的に当社グループの目指すもの

2023年(第75期)までに

連結売上高	650億円
経常利益	26億円を達成し
ROE	5%以上を目指す

(2) 「中長期経営ビジョン2023」の基本方針

- 1) 規模の拡大だけに捉われず、当社で培った特色のある技術を駆使した事業展開を目指す
- 2) 継続的に成長するためお客様への付加価値を向上させ、リピート率の高い経営基盤を確立する
- 3) ASEAN市場を収益源の一つとして認識し、ターゲットを絞った市場へ積極的に投資する
- 4) 一人ひとりの社員を輝き成長させるための社員教育と、採用を含め人的資源へ継続的に投資する

<中期3か年事業計画>(2015年4月から2018年3月まで)

(1) 最終年度2017年度(第69期) 数値目標

	単体ベース	連結ベース
1) 総売上高	570億円	620億円
2) 経常利益	22.5億円	24.5億円
3) 1人当たり売上高	79百万円	
1人当たり経常利益	3百万円	
人員	725人	

(2) 「中期3か年事業計画」の基本方針

- 1) 成長が顕著な医薬品製造分野を中心に、提案型営業を増やし産業設備分野のシェア拡大を目指す
- 2) 客先との関係強化を目的として、ライフサイクル一貫ソリューションビジネスを進め対象のお客様を増やす
- 3) インドネシアでの経営を安定させ、更にミャンマーへの事業展開を図る
- 4) ICT&モバイルを積極的に活用し業務改善を行うとともに、社員教育を充実させ企業競争力強化を図る
- 5) 品質システム(ISO9001)を全社統一し、環境システム(ISO14001)を融合させ、業務効率を上げる

(ii) コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針については、本報告書「1-1 基本的な考え方」に記載しております。

(iii) 経営陣幹部・取締役の報酬を決定するにあたっての方針と手続

取締役の報酬に関しては、過度なインセンティブを付与することが業績達成への圧力となり、不正に繋がることも考えられることを考慮し、一定の月額報酬をベースとしつつ、各取締役の業績への貢献に対しては、取締役賞与の支給をもって評価する方針としております。

取締役報酬は、月額報酬および取締役賞与から構成されます。月額報酬は、固定的な報酬として、毎月一定額を支給します。支給額は株主総会の決議の範囲内で、役位毎に取締役会において定められています。月額報酬のうち、役位毎に定めた一定額を役員持株会に拠出することとし、この拠出により取得した持株会の持分については、在任期間中の引き出しを禁止しております。これにより、中長期的に株価上昇へのインセンティブを付与するものとします。

取締役賞与は、「役員賞与引当金計上基準規程」により計上基準が定められており、株主総会の決議を経て支給することとしております。個別の支給額の決定については、取締役会決議により代表取締役に一任されており、代表取締役社長は、各取締役の期間業績達成度合いに応じて個々の取締役に対する評価を実施し、社外取締役の意見を踏まえて、個別の賞与支給額を決定します。なお、社外取締役に対しては、取締役賞与を支給していません。

(iv) 経営陣幹部の選任と取締役・監査役候補の指名を行うにあたっての方針と手続

1. 指名の方針

経営陣幹部を指名するにあたっては、個人の資質、能力、経験を総合的に勘案して、決断力を有し、リーダーシップを発揮して、当社の経営理念と目標の達成に邁進できる人物を選定します。

社外取締役候補者を指名するにあたっては、性別・年齢・国籍は問わず、経験した部門の業務に精通しており、人格・識見に優れた人物を選定します。

監査役候補者を指名するにあたっては、経験・識見を総合的に判断し、人格に優れ、会社経営や当社の業務に精通した人物または専門分野に豊富な経験を有する人物を選定します。

社外取締役候補者および社外監査役候補者を指名するにあたっては、当社が定める独立性判断基準に該当し、独立した立場で取締役会での助言・監督を行うことができるとともに、それぞれの専門分野の経験が豊富で、人格・識見に優れた人物を選定します。

2. 選定の手続き

代表取締役社長は、上記の指名方針に基づき、社外取締役の意見を踏まえて経営陣幹部や取締役および監査役候補者を指名し、監査役候補者については監査役会の同意を得たうえで、取締役会に候補者を提案します。取締役会は、代表取締役社長の提案理由を踏まえて、各候補者について審議し、候補者を決定いたします。

(v) 経営陣幹部の選任と取締役・監査役候補の指名を行う際の個々の選任・指名についての説明

取締役・監査役の各候補者および経歴等について株主総会参考書類に記載しております。

【補充原則4-1-1 経営陣に対する委任の範囲】

当社の取締役会は、法令・定款に定められた事項や経営理念、中長期的経営計画、年度事業計画等の重要事項を審議し決議します。

取締役会における決議および報告事項については、「取締役会規程」に定められており、同規程の基準に従って取締役会に付議されております。

また、「組織および職制規程」において、取締役または各役職者に求められる役割が規定されており、さらに同規程の中の「職務権限基準」において、職位ごとの決裁権限が定められております。経営陣は、同規程の範囲内での権限が委任されており、本規程に従って委任された権限を行使しております。

【原則4-9 独立社外取締役の独立性判断基準および資質】

当社は、社外取締役候補者および社外監査役候補者を選定するにあたっては、一般株主と利益相反が生じるおそれがなく、独立した立場から社外取締役または社外監査役として業務執行者に対する監視の目を働かせ、取締役会の監督または監査を行うことができる者を選定することとします。東京証券取引所の独立性に関する要件を充足し、専門分野における豊富な経験をもとに当社の経営に率直に助言し、当社の経営を監督・監査できる者であることを要件としております。

【補充原則4-11-1 取締役会の全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性および規模に関する考え方】

取締役会は、経営の最高意思決定機関として、業務執行の基本方針および業務執行に関する重要事項を審議し、決議します。そのため、管理、営業、技術等各部門の担当者や事業所長等それぞれの部門に精通した取締役で構成され、審議を行います。社外取締役および社外監査役は、独立した外部の立場から、助言・監督を行うことで、チェック機能を働かせます。

取締役会メンバーは、当社にとって有用な人材であれば性別・年齢・国籍は問わず、幅広く候補者として選定します。取締役会の規模は、様々な案件を審議するのに必要な各部門、事業所等の担当者でバランスよく構成される必要があり、現在の13名前後が妥当であると考えております。

【補充原則4-11-2 取締役・監査役の兼任状況】

招集通知の添付書類としての事業報告に、取締役および監査役の重要な兼職の状況として開示しております。

【補充原則4-14-2 取締役・監査役に対するトレーニングの方針】

当社は、取締役および監査役に対して、それぞれの役割や責務を適切に果たすために必要なトレーニングの機会を提供しております。

- 1) 新任の取締役および監査役に対しては、必要な知識習得と役割や責任を理解する機会として新任役員向けの講習会に参加させております。
- 2) 社外取締役および社外監査役に対しては、会社の事業・財務・組織等に関する知識を習得してもらうため、就任時に会社についての説明を行う場を設けております。
- 3) 各取締役および監査役は、自身が担当する分野に関して積極的に外部の講習会に参加しており、その費用は、会社が負担しております。
- 4) 取締役および監査役が、会社法をはじめとする法的な知識や求められる役割を理解するために、外部講師等を活用して、定期的にと取締役および監査役に対する研修を実施しております。

【原則5-1 株主との建設的な対話を促進するための体制整備・取組みに関する方針】

当社は、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、経営状態や財務状況等について株主からの対話(面談)の申込みがあった場合は、合理的な範囲で対応するものとしております。

- 1) 株主との対話は管理本部を担当する取締役が主管し、合理的な範囲で当該取締役が対応いたします。
- 2) 管理本部は、日常から営業、技術等他の部門と連携し、詳細かつ正確な情報提供が可能となるよう努めております。
- 3) 当社の事業内容に対する理解促進のため、ホームページでのIR情報の発信や株主通信等の株主宛書類の送付等を行っております。
- 4) 対話において把握された株主の意見等は、必要に応じ経営陣に報告し、認識を共有しております。
- 5) 対話に際しては、株主の皆さまへの公平性を確保するため、インサイダー情報の漏えい防止に努めており、四半期末の決算期末から決算発表までの間については、原則株主との対話は禁止としております。

2. 資本構成

外国人株式保有比率	10%未満
-----------	-------

【大株主の状況】

氏名又は名称	所有株式数(株)	割合(%)
テクノ菱和取引先持株会	2,187,398	9.55
三菱重工業株式会社	1,424,278	6.22
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,131,121	4.94
株式会社みずほ銀行	1,131,121	4.94
東京海上日動火災保険株式会社	906,759	3.96
株式会社名古屋銀行	738,015	3.22
明治安田生命保険相互会社	734,140	3.20
株式会社京葉銀行	723,800	3.16
テクノ菱和従業員持株会	692,405	3.02
近重 次郎	672,493	2.93

支配株主(親会社を除く)の有無	—
親会社の有無	なし

補足説明

3. 企業属性

上場取引所及び市場区分	東京 第二部
決算期	3月
業種	建設業
直前事業年度末における(連結)従業員数	500人以上1000人未満
直前事業年度における(連結)売上高	100億円以上1000億円未満
直前事業年度末における連結子会社数	10社未満

4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

定款上の監査役の員数	5名
監査役の人数	3名

監査役、会計監査人、内部監査部門の連携状況

監査役は、会計監査人から決算の説明を受けるほか、必要に応じて会計監査人との会合を開いて、情報交換、意見交換を行っております。また、内部監査室長は、可能な限り監査役会に出席して、業務監査についての報告および監査についての意見交換を行っております。

社外監査役の選任状況	選任している
社外監査役の人数	2名
社外監査役のうち独立役員に指定されている人数	2名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係(※)															
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m			
横山 真次	他の会社の出身者													△			
林 健一郎	他の会社の出身者													△			

※ 会社との関係についての選択項目

※ 本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「△」

※ 近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」

a 上場会社又はその子会社の業務執行者

b 上場会社又はその子会社の非業務執行取締役又は会計参与

c 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役

d 上場会社の親会社の監査役

e 上場会社の兄弟会社の業務執行者

f 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者

g 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者

h 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家

i 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)

j 上場会社の取引先(f、g及びhのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)

k 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)

l 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)

m その他

会社との関係(2)

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
横山 真次	○	横山氏の出身である株式会社名古屋銀行は当社のメインバンクではありませんが、期中において短期借入金の借入れおよび空調設備工事の施工についての取引関係があります。ただし、その取引額は僅少であり、同氏の独立性に影響を与える取引ではありません。	独立役員の定義に該当し、一般株主と利益相反を生じるおそれがなく、他の会社において経営者としての豊富な経験を有しておられることから有事の際のチェック機能となつてもらうことを期待して、独立役員として指定しております。
林 健一郎	○	林氏の出身である株式会社京葉銀行は当社のメインバンクではありませんが、期中において短期借入金の借入れおよび空調設備工事の施工についての取引関係があります。ただし、その取引額は僅少であり、同氏の独立性に影響を与える取引ではありません。	独立役員の定義に該当し、一般株主と利益相反を生じるおそれがなく、他の会社において経営者としての豊富な経験を有しておられることから有事の際のチェック機能となつてもらうことを期待して、独立役員として指定しております。

【独立役員関係】

独立役員の数	3名
--------	----

【インセンティブ関係】

取締役へのインセンティブ付与に関する
施策の実施状況

その他

該当項目に関する補足説明

取締役へのインセンティブとして、当該事業年度の業績を考慮して、株主総会に支給議案を付議のうえ、取締役賞与を支給しております。また、報酬の一部を役員持株会に拠出する株価連動型の報酬制度を導入しております。

ストックオプションの付与対象者

該当項目に関する補足説明

【取締役報酬関係】

(個別の取締役報酬の)開示状況

個別報酬の開示はしていない

該当項目に関する補足説明

当事業年度における取締役および監査役に対する報酬等の総額は以下のとおりであります。

区分	支給人数	報酬等の総額
取締役	15名	219,798千円
監査役	3名	22,301千円

- 上記の報酬等の総額には、平成27年6月開催の第66回定時株主総会決議による取締役賞与43,000千円を含めております。
- 上記の報酬等の総額には、当事業年度に役員退職慰労引当金として計上した10,537千円(取締役分9,968千円、監査役分569千円)を含めております。
- 上記のうち、社外役員に対する報酬等の総額は4名8,471千円であります。
- 上記のほか、平成26年6月27日開催の第65回定時株主総会決議に基づき、退任取締役3名に対して役員退職慰労金31,495千円(うち社外取締役1名61千円)を支給しております。また、同定時株主総会における役員退職慰労金制度廃止に伴う打ち切り支給決議に基づき、退職慰労金を各取締役および各監査役の退任時に支払う予定であります。その総額は、取締役10名に対して222,167千円、監査役3名に対して3,464千円(うち社外監査役2名1,056千円)となる予定であります。(各金額には、過年度の事業報告において役員の報酬等の総額に含めた役員退職慰労引当金繰入額が含まれております。)

報酬の額又はその算定方法の決定方針の有無 更新

あり

報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容

取締役の報酬に関しては、過度なインセンティブを付与することが業績達成への圧力となり、不正に繋がることも考えられることを考慮し、一定の月額報酬をベースとしつつ、各取締役の業績への貢献に対しては、取締役賞与の支給をもって評価する方針としております。

取締役報酬は、月額報酬および取締役賞与から構成されます。月額報酬は、固定的な報酬として、毎月一定額を支給します。支給額は株主総会の決議の範囲内で、役位毎に取締役会において定められています。月額報酬のうち、役位毎に定めた一定額を役員持株会に拠出することとし、この拠出により取得した持株会の持分については、在任期間中の引き出しを禁止しております。これにより、中長期的に株価上昇へのインセンティブを付与するものとします。

取締役賞与は、「役員賞与引当金計上基準規程」により計上基準が定められており、株主総会の決議を経て支給することとしております。個別の支給額の決定については、取締役会決議により代表取締役に一任されており、代表取締役社長は、各取締役の期間業績達成度合いに応じて個々の取締役に対する評価を実施し、社外取締役の意見を踏まえて、個別の賞与支給額を決定します。なお、社外取締役に対しては、取締役賞与を支給していません。

【社外取締役(社外監査役)のサポート体制】

専任のスタッフは配置していませんが、管理本部において適宜対応しており、また、監査役会には内部監査室長が出席し、監査の連携および監査役へのサポートを行っております。

取締役会は、社外取締役1名を含む13名の取締役及び社外監査役2名を含む3名の監査役で構成されており、経営の最高意思決定機関として業務執行に関する重要事項を審議し、決議いたします。取締役会については「取締役会規程」によりその適切な運営が確保されており、原則月1回開催し、その他必要に応じて随時開催して各取締役の業務執行状況を互いに監督しております。また、取締役会における意思決定のための協議機関として、社長及び社長の指名する取締役をメンバーとする経営会議を設置し、月1回以上開催しております。なお、取締役の指名、報酬の決定に際しては、社外取締役の意見を踏まえて議案を作成することとしております。

3名の監査役で構成される監査役会は、毎月1回開催され、重要事項について協議、報告を行っております。監査役は取締役会には社外監査役を含む全員が出席し、経営会議及び月1回開催される支店長会議には常勤監査役が出席して、業務の執行状況を確認し、必要に応じて意見を述べております。また、監査役は取締役及び使用人に対して必要に応じヒアリング、往査その他の方法により調査を実施し、その職務執行状況を確認しております。

さらに社長直属の組織である内部監査室(専任4名)による監査により、社内の業務推進が適正に行われているかを監査しております。

会計監査については、有限責任監査法人トーマツを選任しております。当社の会計監査業務を執行した公認会計士は三澤幸之助氏、滝沢勝己氏であり、当社に対する継続監査年数はそれぞれ4年、2年であります。また、会計監査業務に係る補助者は公認会計士6名、その他3名であります。

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

当社は、社外取締役の有用性を認識しており、1名の社外取締役を選任しておりますが、迅速な経営判断を行うためには業務に関する知識が必要であると考えております。当社の企業規模や事業内容を考慮すると、業務に精通した取締役を中心としながら、取締役会において社外取締役および社外監査役によるチェック機能を働かせる体制が効率的であり、現在の監査役設置会社の形態を選択しております。

Ⅲ 株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況

	補足説明
株主総会招集通知の早期発送	法定期日の4営業日前に発送しております。
その他	株主総会招集通知を事前に当社ホームページに掲載しております。

2. IRに関する活動状況

	補足説明	代表者自身による説明の有無
IR資料のホームページ掲載	当社のホームページ(http://www.techno-ryowa.co.jp/)で、決算短信等の適時開示資料、株主宛に送付する株主通信の掲示を行っております。	
IRに関する部署(担当者)の設置	IRに関する業務は、管理本部総務部において担当しております。	

3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況

	補足説明
社内規程等によりステークホルダーの立場の尊重について規定	当社は、企業市民としてその社会的責任を果たし、広く社会からの信頼を獲得していくことを目指して、企業倫理行動指針を制定しており、投資家、従業員、取引先等の立場の尊重について規定しております。
環境保全活動、CSR活動等の実施	当社は、テクノ菱和環境方針を定めており、環境に関する基本理念と基本方針に基づいて、環境マネジメントシステムを構築しております。また、全社的な環境保全活動推進体制を構築し、環境保全活動を推進しております。

IV 内部統制システム等に関する事項

1. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況 更新

1. 基本的な考え方

当社は、さまざまな事業活動を通じてステークホルダーの皆様に対して価値を創出し信頼を獲得していくことで、社会全体とともに持続的に成長し、豊かな社会の実現に貢献していくことを目指しています。そのためには、効率的な組織体制を構築してそれを運営していくとともに、役員・従業員が、法令、社内規則および社会規範を遵守し、企業の社会的責任を認識して高い倫理観のもとに企業活動を行うことが重要であると考えます。

2. 整備状況

(1) コンプライアンス体制の整備状況について

・取締役および使用人の職務の執行が、法令および定款に適合することはもとより、社会規範や企業倫理にも適ったものとするために「企業倫理行動指針」を制定しております。取締役は、自らの率先垂範を通じて使用人への周知徹底を図ります。取締役および使用人は、この指針に従って職務の執行にあたり、企業の社会的責任を果たし、広く社会からの信頼を獲得することを目指します。

・コンプライアンス体制を確立し不祥事を未然に防止するという目的を達成するため、コンプライアンス委員会を設置しております。コンプライアンス委員会は、「コンプライアンス委員会規程」に基づいて、社内のコンプライアンス体制の整備、維持を図るとともに、法令違反その他のコンプライアンス違反に該当する事項を発見した場合の対応策および処分等を審議いたします。

・取締役および従業員に対して、日常業務遂行にあたっての行動準則を示すものとして、「コンプライアンス・マニュアル」を作成しております。

・コンプライアンス上問題がある行為を知った場合の報告先として「コンプライアンス投書箱」を設置し、匿名または記名による報告を受ける体制を整えております。

(2) リスク管理体制の整備状況

・リスク管理体制の基礎として、「リスク管理基本規程」を制定し、リスク管理に関する基本方針を定め、同規程に基づいた社長直轄のリスク管理委員会を設置しております。また、リスクを体系的に管理するために、当社を取り巻く主要なリスクを「リスク一覧表」として取りまとめ、規程に定めた管理プロセスに則りリスクへの対処方法を検討いたします。不測の重大リスクが発生した場合には、社長または社長が任命する者を長とする緊急体制を敷き、関係部門への指示を徹底して被害の拡大を防止し、これを最小限に止める体制を整えております。

(3) 情報管理体制

・取締役および従業員の職務執行については、「組織および職制規程」に定められた権限に基づき、取締役会等の重要会議の決議や決裁権者の決裁を受け、議事録および決裁書は、「文書管理要領」に基づいて保存・管理しております。

(4) 子会社の管理体制

・子会社の管理は管理本部が担当し、「関連会社管理規程」に基づいて、子会社の経営管理および経営指導を行っております。子会社は同規程に従い当社への申請、報告を行っております。

・「関連会社管理規程」に基づいて行われた子会社からの申請、報告をもとに、子会社のリスク管理、法令遵守等の実施状況を把握して、子会社に対して諸施策の改善や見直し等を図らしめることとしております。

・当社の取締役または従業員が子会社の取締役を兼務し、取締役会への参加を通じて取締役の職務の執行状況を確認しております。また、子会社から定期的に業績の進捗状況を提出させ、子会社の経営状態を把握して適切な経営指導を行っております。さらに、四半期ごとに連結子会社の社長を当社の支店長会議に参加させ、子会社に対して事業方針や事業計画等の報告を求めるとともに、当社グループ全体での経営方針等の共有を図っております。

・子会社の取締役および従業員に対して「コンプライアンス投書箱」の報告先を周知させ、当社の従業員と同様に子会社からもコンプライアンスに関する報告、質問等を受ける体制を整えております。また、子会社に対しても「コンプライアンス・マニュアル」を配布し、法令遵守への意識づけを行っております。

2. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社は、企業倫理行動指針のなかで、社会の秩序を乱す反社会的勢力に対しては、一切の関係を遮断する旨を明文化し、全役職員に周知徹底しております。反社会的勢力に関する情報については、本社の総務部門が、警察や弁護士等の外部の専門機関とも連携を図りつつ情報収集を行っております。また、コンプライアンス・マニュアルにおいて、「反社会的勢力および団体との対決」との表題で、反社会的勢力に対する心構えや行動原則等を示し、これらの勢力との関係を遮断することの徹底を再確認しております。

1. 買収防衛策の導入の有無

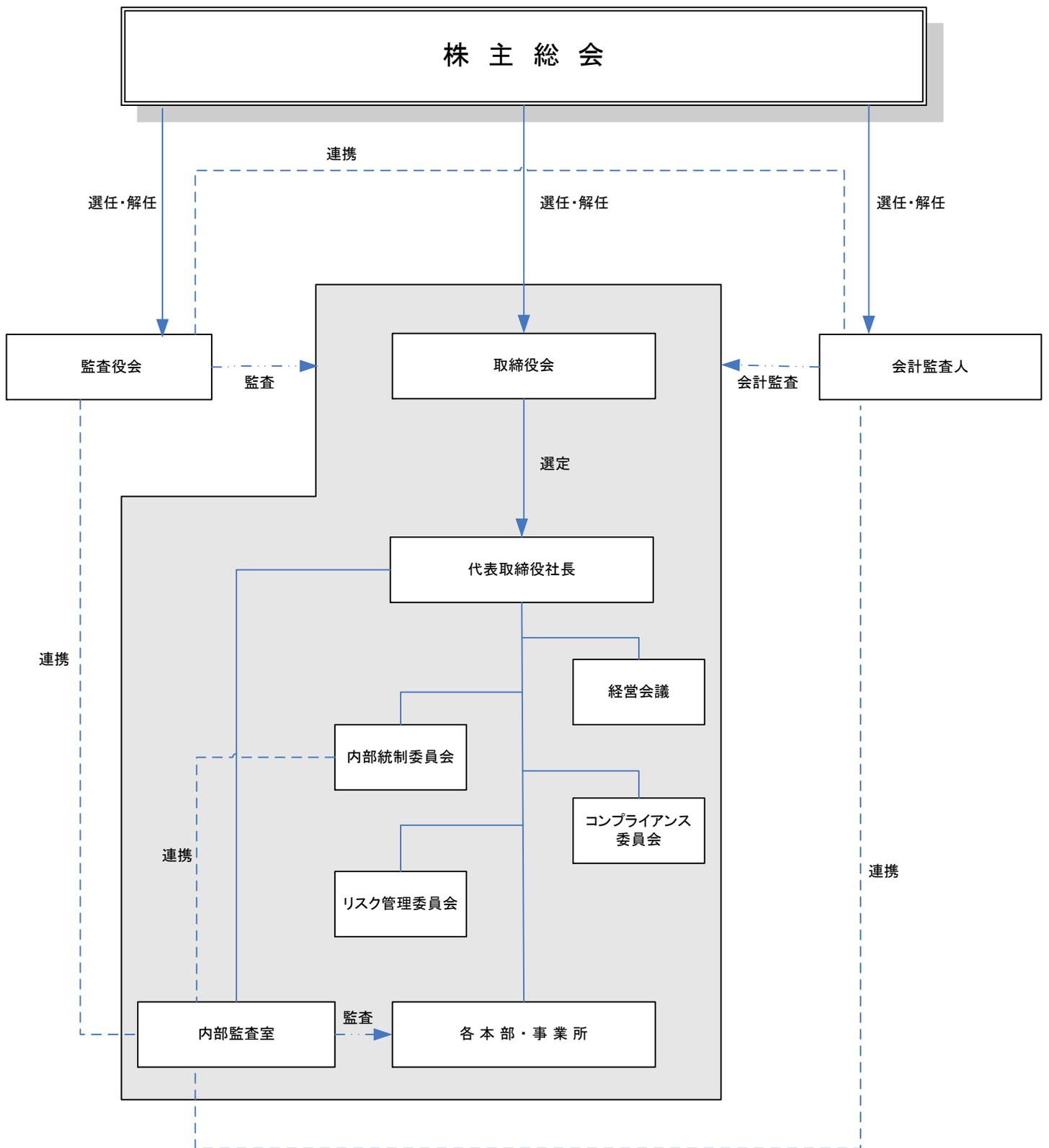
買収防衛策の導入の有無

なし

該当項目に関する補足説明

2. その他コーポレート・ガバナンス体制等に関する事項

[コーポレート・ガバナンス体制]



[適時開示体制]

